



 仙北市

議会だより

No. 11

■特集■ 広報委員の語るまちづくり



4,188万円の少額 補正予算を可決

—平成20年度一般会計—

仙北市 6月定例議会

**一般会計補正予算
わずか四千八百
十八万円の少額**

国民健康保険税条例 を全面改正

6月定例会の会期は15日間だったが、内訳は本会議5日、委員会1日、休会9日の日程だった。提案された主な議案は「仙北市国民健康保険税条例制定」、「仙北市基金条例一部改正」、「一般会計補正予算」など15件と人権擁護委員の推薦である。一般質問者は7人、議案質疑の通告者は2人だけという静かな定例議会となった。最終日は討論採決が行なわれ、全議案とも当局の原案どおり可決された。最後に「秋田内陸線存続に関する調査特別委員会」を設置して閉会となった。

国保税に、後期高齢者支援金加わる

国民健康保険税条例の変更の主な点は、一つは10月から年金からの天引きによる特別徴収が始まること。これには次の条件を満たす納税義務者が

該当する。

- ① 国保の被保険者が全員65才～74才の世帯。
- ② 世帯主が国保被保険者で、年18万円以上の年金を受給している人。
- ③ 国保世帯主が介護保険料の特別徴収義務者で、被保険者の介護料と国民健康保険税の合算額が、年金の2分の1を超えない人。

2つ目はこれまでは「医療給付金」、「介護納付金」の2項目だったが、新たに「後期高齢者支援金」が加わった。

3つ目は後期高齢者支援金に加わったことにより、税率が変わった。平成20年度の国保税の税率は、介護分は変更ないが医療分は変更。後期高齢者支援金分が新設された。()は19年度。

所得割

医療分	6・1%
支援分	(9・2%)
介護分	2・6%
介護分	2・0%
医療分	25・0%
資産割	(28・0%)
支援分	12・0%
介護分	4・5%

均等割

医療分	21,000円
支援分	(26,500円)
介護分	8,500円
介護分	9,300円

平等割

医療分	18,000円
支援分	(30,300円)
介護分	7,000円
介護分	5,400円

限度額

医療分	470,000円
支援分	(560,000円)
介護分	120,000円
介護分	90,000円

議員の質疑は、主に次の点である。

問 特別徴収に改正した理由は何か。また特別徴収を条例化しないとペナルティーはあるのか。

答 国・県の指導による改正である。特別徴収することにより、納期限を忘れることがなくなり、収納率が上がると思う。ペナルティーはない。

問 年金から天引きする特別徴収を取り下げの意思はないか。

答 納め方として適当であると判断している。

問 これまでは口座振替を推進してきたが、滞納等が多いため天引きとするのか。完納者も天引き対象なのか。

答 口座振替の世帯数は約1,100世帯ある。滞納状況はわからない。



仙北市国民健康保険会計で運営されている神代診療所

国の連絡によると口座振替できるのは、「徴収率が限りなく100%に近い自治体」となっている。仙北市は約93%のため改正をした。

ふるさと仙北応援基金を創設

この議案は「ふるさと納税制度」をきっかけとする取り組みで、仙北市のまちづくりに賛同する人々の寄付金を財源として、豊かなふるさとづくりに事業に充てるために、仙北市基金条例に追加したものである。

議案質疑では「東京ふるさと会における納税制度の説明」、「この条例に

取り組む仙北市の姿勢について「質疑がなされた。

条例改正し指定管理者指定に移行

仙北市勤労青少年ホーム条例の一部を改正する議案が可決された。あわせて隣の外ノ山テニスコート条例の一部も改正された。

改正点は「指定管理者による管理」と「指定管理者の業務」、「利用料金」等である。

平成21年度から指定管理者指定に切り替えるための条例改正である。

勤労青少年ホームの利用者数は年間6,000人、テニスコートは平成

18年度が480人、19年度は225人と質問に答えた。

その他には「現在使用している体育協会との関係は?」、「不登校の教室利用」、「維持管理費の状況」等の質問があった。今年度は184万円の管理運営費を予算措置している。指定管理者指定の経費の措置は、債務負担行為で、3年間851万円を措置している。

議員の意見は「指定管理者指定を見直すべき」との声が強い。

議会費1,200万円を減額補正

3月定例会で、8%の報酬削減を議決したことから、1,110万6,000円が減額された。

総務費

過誤納税等還付金2,600万円が措置された。対象数は1,350人。

民生費

福祉施設民営化推進費として、36万1,000円が措置された。来年度田沢湖清眺苑を民営化する。



補正予算が可決された神代中央線

準備。福祉医療事務費294万円は、後期高齢者医療制度のシステム変更の委託料。

商工費

観光費として山と湖を美しくする会清掃活動補助金と田沢湖を美しくする会補助金24万8,000円の補正。

土木費

道路維持費は94万1,000円の補正である。道路新設改良費563万円の補正は、わらび座に向かう上菅沢地内の危険箇所改良費である。地方道路臨時交付金事業は、神代中央線、栃ノ木六本杉線、観光道路線の3路線の委託料1,22

7万円と補償金補填費及び賠償金2,430万円が充てられる。

教育費

水泳プール管理費は、白岩小学校プールに12万1,000円。旧東小、西長野小の

プールは予算補正できず、使用が不可能となった。

男鹿和雄展に支出する一部費用をプール管理費にのり込めることができなかった。



男鹿和雄展が秋に開催される武家屋敷通りの平福記念美術館

豊かな体験活動推進事業は松木内小学校で行なわれる。予算は50万1,000円。

「男鹿和雄展」は9月20日から11月4日まで、平福記念美術館を会場に「ジブリの絵職人」男鹿和雄氏(大仙市太田出身、角館高校卒業生)の作品展が開かれる。予算は日本テレビへの委託料として、682万円。実行委員会補助金230万円である。

復活する秋田内陸リゾートカップ100キロチャレンジマラソン大会補助金は、120万円が措置された。

常任委員会 だより

私たちの任期もすでに2年を経過し、折り返し点となりました。総務、産業建設、教育民生それぞれの常任委員の任期は、条例で2年となっています。5月の臨時議会で委員会所属は、これまでの「地域単位」から「会派」の話し合いで決定されました。今定例会は、委員会構成変更後初の定例会であり、当局、委員双方に、これまでと違った緊張感がありました。また議会運営委員会（定数7名）も構成が変わりました。運営委員長に浦山敏雄（政真会）、副委員長に青柳宗五郎（創成会）、委員は安藤武、黒沢龍己（仁政ク）、真崎寿浩、大石温基（翠巒会）高久昭二（共産党）の各議員が議会運営にあたります。



総務常任委員会

総務常任委員会の構成は小林委員長、浅利副委員長、委員は佐藤（直）、黒沢、大石、門脇（健）、青柳、佐藤（峯）と強力メンバー揃い。本会議より当委員会に付託された案件は議案4件、陳情1件、継続審査中の陳情1件含め計6件である。

審査風景



仙北市基金条例の一部を改正する

「ふるさと納税」制度がスタートした。仙北市へのふるさと納税に対応するため、基金条例の中に「ふるさと仙北応援基金」を設けるもの。

問 見通しの何件くるのか、目標を設定しているのか。今後、いかにPRするかが重要だ。ふるさと会以外に呼びかけPRする考えはあるのか。

答 今の所、福岡の方から10,000円の寄付があり、その他2件の申し込みを受けている。できる限り多くの方から応援して頂きたいと思っている。PRはふるさと会以外に板橋区のアンテナショップや市内の観光施設の訪問者へも呼びかけを行っていききたい。

問 ふるさと納税申し込み手順を見ると難しすぎると思う。気安く寄付して頂く体制を作る事が必要と思うが。

答 県外からの寄付を頂くためには色々な課題がある。手続きのやりとり非常に時間がかかる面もある。改善を図りなが

ら、寄付し易い環境を整備していききたい。

平成20年仙北市一般会計補正予算

【歳入・平福記念美術館観覧料、600万円】

問 男鹿和雄展を開催するという事だが、歳入の600万円に対し歳出予算は900万円です。300万円の持ち出しになる。地域の活性化事業という事もあろうが、収支トントンになる位の見込みを付けたイベントをやるべきではないのか。

答 大仙市、北秋田市等へもPRをしていく。全庁をあげて取り組み、予算以上の入館料が入るよう努力したい。

問 実行委員会への補助金はいくらか。この歳入600万円は入場料のみか、グッズ・図録収入は見込めないのか。

答 実行委員会補助金として230万円を予算措置している。グッズ・図録販売を120万円程見込んでいる。これを差し引いての補助金だ。
【歳入・農林水産事業費 県補助金△400万円】



体験交流の田植え作業をする子ども達

問 子ども農山漁村交流プロジェクトの予算であったはず。なぜ県補助金がカットになったのか。

答 当初予算時点では補助金の交付が市を通しての予定であったが、その後、要綱等が明確になり、交流プロジェクトを実施する協議会へ直接交付になった事によるものである。

【歳出・普通財産等監理費用・22万円】

問 旧西長野小学校グラウンドの測量費という事だが借りる契約をする時

に面積算出のため測量したはずだ。杭も打つていると思うが。

答 借主から境界をはっきりしてほしいと要望を受けて現地調査した。当時の境界杭とかはつきりしない部分もあったので、再調査してはつきりさせるための測量費である。

◎採決の結果、4議案とも全会一致で原案の通り可決された。

陳情

●名古屋高裁の「空自イラク派兵は違憲」判決を尊重し「自衛隊をイラクから直ちに撤退させる意見書」の採択について

○審査の結果、さらに調査が必要のため、継続審査と決定した。

●地積調査錯誤の修正方について（継続）

○委員の構成替えて新しい委員が多い事から現地を見なければ分からないとの事で現地調査もしたが経緯等更に調査が必要のため継続審査と決定した。



教育民生常任委員会

小田嶋委員長、田口（寿）副委員長のコンビが仕切る教育民生常任委員会は、所属委員に平岡、佐々木、田口（勝）、沢田の経験豊かなメンバーと前総務委員長真崎という当局にとって、大変手強い委員構成となった。

条例案件では、国民健康保険税条例、勤労青少年ホーム条例、外ノ山テニスコート条例改正が審議された。一般会計補正予算は、主に教育費の男鹿和雄に論議が集中した。

国保税も特別徴収に！ 口座振替で対応せよ！

仙北市国民保険税条例 特別徴収が始まる。「後改正は、「今年度10月から 高齢者支援金が、新たに課税され、税率が変わら、年金から天引きする



審査風景



この夏 500人を超える児童が使用する角小プール

る」が改正点である。

特別徴収について

問 後期高齢者医療制度でも騒がれており、国会で対応について、只今論議中である。仙北市独自に口座振替で対応すべきでないか。

答 国保税についても特別徴収する地方税法の改正があった。普通徴収ができるのは、徴収率が限りなく100%に近い場合に特定されている。

課税方式について

問 現行4方式を資産割方式を廃止して、3方式

に改めたところがある。また国保税の納期について納付しやすいように改める気はないか。

答 担当レベルで検討しているが、制度が変わっている中で、変更するのは混乱を招く恐れがある。

委員の意見要望

課税方式の変更は、相続未登記によるもので、その実態等を調査し、課税について公正さを欠かない対応をすべきだ。国保運営協議会の審議は、仙北市の条例を策定する

重要な審議である。いっそうの充実を望む。

来年度指定管理者指定に！

外ノ山にある勤労青少年ホームとテニスコートの条例一部改正は、来年度から指定管理者指定にするための改正である。委員会では現状の利用状態等について質疑があり、施設の委託のあり方について議論された。

問 利用率や価値等を検討せずに、何でも指定管理者制度を導入して委託する方法は経費のムダである。不要な財産は処分すべきだ。

答 今後数年で職員の大幅な減少となる。それを見通して委託を進めている。不要な施設は廃止も選択肢にいられている。

日テレとの随意契約に問題ないか？

平成20年度一般会計補正予算で主に質疑がなされたのは、教育費の予算や施策についてである。特に平福記念美術館を会場として行なわれる「男鹿和雄展」について、

質疑がされた。

男鹿和雄氏は、大仙市太田出身で、昭和26年生まれ。角館高校の22期生である。

ジブリの絵職人といわれ、「となりのトトロ」、「もののけ姫」等の背景画を手がける。

問 今回の進め方は、競争のない随意契約による委託で契約に問題がある。また「官民協働事業」として、実行委員会形式をとったが、全額市の予算では名目だけである。予算の議決を得ないまま、事業化していることは問題である。

答 安易に随意契約を結ぶものではない。

この企画展の営業権は日本テレビにしかない。

実行委員会は「官民協働」を対外的にアピールするためである。予算執行にあたっては、十分に行政が責任を持って取り組み誤解を招かないように万全を期したい。

委員の意見

教育予算は乏しい。学校や子供達に不便をかけている。この現実に批判が集中した。



産業建設常任委員会

各常任委員会委員は2年交替により産業建設常任委員会委員のメンバーも次のように変わって行動力の委員長をはじめとして経験豊かなメンバーとなった。

委員長 安藤武

副委員長 高久昭二

委員 八柳良太郎、浦山敏雄、田口喜義、佐藤宗善、藤原万正、戸沢清の8名である。

委員会が担当する主な事業は、農林業、土木事業、観光、商工事業などである。

本会議から当委員会に 平成20年度仙北市一般付託された案件は、議案 会計補正予算について1件、陳情4件、の合計 土木費 「道路改良事業」につ



審査風景

いては上菅沢地区神代第一幹線カーブの改良に要する費用であり、用地関係者の意向も聞きながら進めたいとの説明であった。「街路事業」については岩瀬北野線の調査費であり、内川橋から横町橋間の未完成部分の事業実施に向けた調査費180万円である。

農林水産業費

子ども農山漁村交流プロジェクト事業の減額400百万円であったが、内容は平成20年4月1日に国の交付金要綱、事業要項が決定した事により、活動母体である仙北市農山村体験推進協議会への直接補助となり減額になった。

5年後から本格的導入を目指す、小学校5年生を対象に1週間以内の農業体験を目的とした、農水省、文科省、総務省の合同事業である。全国展開を図る前のモデル地区に指定を受けた。

林業費

針広混交林化推進事業については、今年度から導入された秋田県水と緑の森づくり税事業を活用

するソフト事業、混交林の誘導伐、作業路の開設等の事業である。

観光費

山と湖を美しくする会清掃活動費、田沢湖を美しくする会の各補助金である。県が清掃活動団体と直接委託契約をする予定であったが市への補助となり変更が生じた。市が助成している主な活動は、湯尻、春山、御座の石等のトイレ清掃、空き缶等のゴミ処理、草刈等

行っているものである。◎本案については全会一致で原案を可とした。

陳情

●住宅地内の前川水路一部改修の陳情

◎本案については前回に引き続き現地確認をしたが、さらに調査が必要のため「継続審査」となった。

●「鳥獣被害防止特措法」関連

◎予算を、鳥獣捕殺では



田沢湖畔の清掃に励む田沢湖を美しくする会員



陳情された神代地区の道路改良箇所

なく自然林復元と被害防除に使うこと等を求める意見書提出に関する陳情 本案については全会一致で「採択」とした。

●市道神代保育所東線の変更認定と舗装について

◎本案については現地確認をしましたが、さらに調査が必要のため「継続」審査となった。

●国による公的森林整備の推進と国有林野事業の健全化を求める陳情書

◎本案については、全会一致で「採択」とした。

一般質問

仙北市議会が昨年から会派制になり、年間の一般質問の回数が会派ごとに割り振られ、一定例会8人ほどが質問に立っている。

今定例会は7議員が登壇した。田口寿宣議員は仙北市の財政状況、田沢湖の景観についても取りあげ、真崎寿浩議員は内陸縦貫鉄道と木質バイオマス発電の実現に向けての考え方をただした。

田口勝次議員は市政運営の基本的考え方や来秋の市長選への対応、高久昭二議員は子育て支援について、藤原方正議員は環境問題についてただした。

澤田信男議員は指定管理者制度と定員適正化計画、田口喜義議員は福祉施設の民営化の考え方を聞いた。

行財政改革にスピードを積極的に正しく進める



田口寿宣

質問 仙北市の財政状況も「厳しい」から「危機的」へと表現が変わり、極めて深刻な状況になってきたと受けと

答弁 市の財政状況については、表現として厳しい状況という中から平成20年度予算編

める。この状況から脱却をするには、行財政改革の具体化と更なるスピードアップが求められる。市民にもこの危機的状況をしっかり示し、理解と協力を求め、財政再建に進むべきと考えるが、市長の考えを伺う。



情報センターで行われた法政大学主催の勉強会

成、そして施政方針でも危機的状況という表現をした。財政に限らず、人、もの、金、すべて危機的状況であるという認識で

の行政改革のスタートに立っておるわけである。従って、厳しい状況から危機的な状況に悪化したというようには捉えていない。財政の状況を市民の皆さんに積極的に説明する責任がある。様々な事業についても、市民と行政の協働による進め方を、今後とも理解をえていかなければならないと

質問 地域づくり、事業協力を結んでいる法政大学と観光に関する連携協定書を結んでいる。ノーアジア大学等を十分に

答弁 幾つかの大学機関との連携を持ちながら、進めているところである。我々が期待する事は、情報というものを地域の活性化の判断に加えていきたい、そして人づくりに活かしていきたい、というのがねらいである。また、専門家の育成であるとか、中小企業、商店といった経営者の育成につながる様な形で、大学との連携を活かしていききたいと思っ

活用し展開する事によって活性化して行く、一つの要素と考えるが市長の考えを伺う。

質問 重点プロジェクトは、市民所得向上につながる重要なことと考えるが、現在の状況

の進め方について伺う。確かに重点プロジェクトをすすめる事によって、地域の活力が生まれ市民所得も上がり、活性化につながるものである。その趣旨から定住プロジェクト、定住促進という事で空き家対策等に取り組んでいる。4月現在12件ほど問い合わせのある中で、そのうち1件が成約した。

質問 田沢湖の景観について、ゴミ、生活排水等、どのような対策を考えているのか伺う。

現在市としては、9名の廃棄物不法投棄監視員を委嘱して監視に当たっている。また自然公園管理員という事で、県から委嘱されている4名の方々に情報、監視、指導をお願いしている。19年度から市町村型設置合併処理浄化槽の導入を進めている所である。市の顔である田沢湖をみんなで汚さないという、当事者意識を持つていきたいと思っている。

マイレールの意識高揚を乗車に最大限の努力をはかる



真崎寿浩

質問 秋田内陸線鉄道 存続も寺田知事が、9月まで結論を出すとい

われており、北秋田市はスクールバスに一度転換したが、現在一部見直しを検討している。

答弁 秋田内陸線鉄道 存続については、再生計画五年間の中間点であり、人員、経常収支共、計画数値に対し未達成である。

県内陸部振興の為に、観光客比率を上げ、地域おこしをし、鉄道の魅力を感じ乗車してもら

う為、仙北市として、最大限の努力を図りたい。

質問 訪れる人にとつて優しく親切で安全な道路は重要なことだ。地震被害報道で指摘されているように、仙北市も山岳部を抱えており、市道の管理者として、仙北市の危険箇所の再点検が必要ではないか。

特に神代地域夏瀬温泉への道路については、危険箇所の総点検、道路改良が必要ではないか。

答弁 夏瀬の道路については、市道となつているが、冬の交通は現在禁止している。営業状況の変化によっては他の改善すべき道路に加え優先順位を見直しをし、整備に取り組みたい。

質問 新エネルギービジョンを活かした木質バイオマスについて、前回は一般質問したが、今年度、事業化に向け、わずか予算を計上された。

原油高騰中、早急に事業実施すべきと考えるが、いつの年度に、具体的に取り組むか再度伺いたい。

新エネルギービジョンを活かした木質バイオマスについて、前回は一般質問したが、今年度、事業化に向け、わずか予算を計上された。

過疎債対象とならないが、それ以外の方法について検討したい。

新庁舎公表のときでは結論は今年度内に



田口勝次

答弁 木質バイオマス発電地域システム化については、平成21年度事業申請する為、取り組んでいる。今より有利な補助制度、支援制度を模索している。

6月から8月に最終決定し、計画立案し、平成21年1月、県ヒアリング後、林野庁へ計画書を提出すべく取り組んでいる。

は、既存の建物の再利用も含めて検討中で、今年度内には結論を出す予定である。本庁舎のある地域だけが利便性が上がるというのではなく、各地域の行政サービスが低下しないよう、考慮しながら結論付けていきたい。



昨年の国体馬術大会の会場となった玉川河川敷

質問 市役所の行政サービスにかかわる組織体制とはどのようなものか。また、新庁舎の建設については、住民サービスの向上に必要であることは議論済みであるが、新庁舎の概要について、公表する時期に来ていると思うがその考え方は。

財政健全化施策については、基本的な考えは。また、遊休施設・用地等、公的価値の薄い財産の処分について、いろいろな処理方法があると思うが、具体的にはどのように進めるのか、具体策はあるのか。

答弁 現在の分庁舎方式での不便さについては認識している。新庁舎の問題について

厳しい財政状況でスタートした仙北市においては、限られた財源を有効に使うという

うことに尽きると思う。厳選された事業について、説明責任を果たし、理解をいただきながら取りこんでいきたい。

遊休施設等の処分については、個々の件について具体的にどうするのかを考えて、方向付けをしていく考えている。

質問 負担に苦しむ高齢化社会の福祉と医療について、高齢者福祉は具体的な複数の施策が必要と思うが、具体的にはどのような形態を考えているのか。また、幼稚園保育所の運営形態について、方向付けは民間化と認識しているが、今後どのように運営してい

くのか。

答弁 今後においては、在宅介護が大切な時代になるが、施設入所による介護もあわせ、充実をはかりたい。医療関係は、組織的にも運営的にも一本化をし、役割を明確化し、医療体制の強化をはかりたい。

福祉と医療の連携強化をはかり、限られた人材を有効に使って充実させていく手法を模索中である。

質問 国体馬術競技場跡地の利用計画について、その内容の現状における考え方は。

答弁 グラウンドゴルフやサッカー等で



内陸線廃止は限界集落への道といわれる秋田内陸線列車

の利用を想定した、多目的の広場として活用する方針で考えている。11、400㎡の土地を六年間で整備していく計画である。

質問 来年秋に予定される仙北市長選挙に再度挑戦する意思は。

答弁 「任期中最善を尽くす」ということである。各々が、市政運営の進捗の中で状況を判断して決断していくと思われる。私を含め各々の人がその時にならなければ答えは出ないと私は思っている。この先同じような質問があっても答弁は同じだ。

独自の子育て支援策を 広い範囲で支援していく



質問 仙北市の子育て支援は、他市町村と比べて特長的な施策が見受けられない。乳幼児医療費無料化制度について、他市町村では所得制限の一部緩和をしているが、仙北市はどうか。

次に一時保育や延長保育も含めて、対応する職員体制は整っているか。また待機児童はいないか。

い。

質問 要保護・準要保護児童生徒就学援助費について、給食費や教材費など未納者への対応が変わった。保護者の同意を得ないで、扶助費を学校長名義の口座に振り込み、教材費等の負担額を引き去りして、残額を保護者口座に振り込むという方式がとられた。保護者への説明によれば、「教育委員会と協議して変更した」とあるが、変更にあたっての経過を伺いたい。なお取り扱いが不正常であるなら当該保護者に返還すべきと思うがどうか。

中川児童館の老朽化が著しいが、今後改修等どのように考えているか。

答弁 仙北市は国、県市独自の補助を加えながら福祉、教育、健診など広い範囲で支援をしている。

所得制限について、市独自の補助として県の制限から外れた分について市で助成している。

保育事業については11時間の保育を行っており、それに対応できる職員体制を保っている。待機児童は、定数上の待機はいない。

中川児童館は現状を再度確認して対応を決めた。

質問 非正規職員の身分保障、待遇改善についてどのように考えているか。具体的に通勤費の実費支給、割増賃金による手当支給等は考えられないか。また正規職員化に向け、道を開くことはできないか。

扶助費は原則、保護者口座という規定である。ただし保護者の委任を受け、学校長が教材費等を引き去り後に、残額を保護者口座に振り込む方法もある。ご指摘はこの方式に切り替えた学校の例と思う。就学援助の趣旨や扶助の趣旨に則って、保護者に帰属することを原則に、返還も含め保護者と確認したい。

質問 仙北市の非正規職員283名の働きが、行政運営において大きなウエイトを占めているが、このことに対する市長の見解をうかがいたい。

非正規職員の身分保障、待遇改善についてどのように考えているか。具体的に通勤費の実費支給、割増賃金による手当支給等は考えられないか。また正規職員化に向け、道を開くことはできないか。

非正規職員の雇用は、「やむを得ざる」と「正規職員をあててお願ひしてきた。正規職員と似通った業務を遂行している非正規職員の処遇については、時間給の



楽しそうにお話している「だしの子園」の園児たち

引き上げを図った。手当支給がより効果的であれば、その方法も検討したい。正規職員化については、経験が長いと言うことでの採用は考えていない。今後は民営化に伴って、受け手の企業に採用していただく方向で取組む。

環境への取り組みは 常に意識し、すすめる



藤原方正

質問 7月7日を初日として、北海道洞爺湖サミットが始まる。

答弁 仙北市として特に環境週間とか、

今月は環境月間であり、今月の5日は環境の日でもある。環境問題は今大きくクローズアップされ、環境への関心が高まっているが、サミットを前に、月間中に、本市としての環境についての取り組みを伺います。

市民の皆様へ

次回の9月定例会は
9月中旬の予定です。
ぜひ傍聴に来てください。



環境の取り組みを今のところ考えているわけではないが、環境ということについて常日ごろ、例えば不要な電気の消灯であるとか、封筒、また紙の節約などこれは単なる経費の節減ということのみではなく広い意味での地球温暖化防止につながるものと思う。またゴミ袋の有料化によるゴミを出す量の減少、そしてひいてはゴミ処理に伴う燃料の減少、こういったつながりの中で地球温暖化防止に市として関れるものについては常に意識をしながら進めていきたいと思っています。



神代中学校に備えられているAED（自動対外式除細動機）

質問 厚生労働省は生活保護を受けるまでに至っていない、いわゆる「ボーダーライン層」への支援をするため今年度から「自立支援相談員」を市町村に配置するとしているが、配置されているのか、また本市の生活保護世帯数と人数を伺う。

回答 自立支援相談員の関係であるが現在本市には相談員は配置されていないが、その必要性については私どもも同感であるので、今後その配置について国、県とも相談しながらすすめていきたいと考えている。

生活保護世帯数、人数

については平成20年4月1日現在、313世帯、422人となっている。

質問 AED、いわゆる自動体外式除細動機の設置状況と当市の講習会の開催状況について伺う。

回答 AEDについては、仙北市の保有の状況は不十分だと感じている。現在市で把握している設置箇所は29ヶ所であり不足である。

この講習会は平成19年度で28回行われていて、受講した方々は578名

黒倉遺跡範囲確認調査を遺跡は一級品だ



沢田信男

質問 本庁舎整備の平成19年度の検討結果を開示、公表する考えはないか。

また任期中にめどをつけたことであるがめどがつく状態とは何

となっている。

質問 視覚障害の方々の情報取得のため音声コードの導入について伺う。

回答 当市としては平成20年度予算に視覚障害者用情報支援機器の購入費を計上している。設置場所も対象者の多い地域センター、また福祉事務所がいいのかといったことも検討していく。使用頻度、配置場所、必要台数、などこういったものも今後順次整備していきたいと考えている。

か。

回答 平成19年度に新庁舎整備中間報告をまとめており報告では、新庁舎の考え方、現庁舎の現状機能、庁舎の規模、建設適地、事業費の試算、建設の財源等報告を受けているので、更に精査し調査検討を進めている所であり、11月まではワーキンググループより報告書を頂くことと

考えている。調査の段階での情報の



縄文時代に数千年続いた黒倉遺跡

開示については、具体的な場所、建物等検討の対象になった時に、受ける側の考え方や思惑など混乱を招くおそれもあることから公表は差し控えた

いと考えている。

質問 黒倉遺跡は縄文中期から後期にかけての集落跡のようだが、2回の調査により判明している内容について伺いたい。

今後、範囲確認調査や試掘調査をすべきと思うかどうか。

回答 縄文時代の前期の初頭から晩期ま

めどのつく状態とは議会や市民の意見を伺える段階の時と考えている。

今後の調査については仙北市の埋蔵文化全体像の計画の中で必要に応じて調査していきたい。

質問 指定管理者制度が縮減されているように見えるが、職員数に余裕のある仙北市の場合、外部委託の分だけ、かき増になるのではないかと

思

更に、福祉施設等民間委譲をされることにより定員適正化計画を、早期に前倒しをして進めるべきではないか。

答弁 指定管理者制度は市の職員が直営で運営している施設を指定するものではなく第三セクター等職員配置のない施設についてすすめている。したがって二重の経費の心配はない。

また、定員適正化計画の見直しについて、現状前倒しの形で計画より進んでいる。これは定年退職職員や団塊の世代が定年を向かえ、20名前後の退職者に対して新規採用を行政が滞ることのないよう抑えて進めている。

前倒しについては、民間が会社の業績が思わしくないのでリストラするようなことは、公務員制度の中で職員を強制的に整理することはできない。しかし早期退職者優遇制度を継続しており10年計画の中期において1年でも早い達成を目指している。

保育園民営化の具体策 部分委託も含め、今後検討する



田口喜義

質問 市は直面する財源不足の解消を目的として、人件費の抑制・事務事業の見直し、内部管理の節減など行政改革に取り組んでいるが、一向に良くなる兆しは見えてこない。これまでの実施計画を策定したものに

ついて、その成果と反省点を伺う。

この4月1日から行政改革推進室を独立して設け、各部各課の改革についての全体的な取りまとめ役、推進役を果たしている。近日中に19年度の成果を基に、この先各項目についてどうするかという打ち合わせを予定している。

答弁 主な進捗状況は「公の施設の指定管理者制度」の導入、21年度までの目標が22施設であったが、これまで25施設の同制度

の導入を行った。定員管理の適正化については、17年の計画スタート当初の全職員数は948人であったが20年度4月1日現在の目標が914人に対して現在908人、目標に対して12名の前倒し減員を達成している。

税の収納対策は平成21年度一般税の収納率92%という目標を立てているが、残念ながら平成19年度の見込みは88・9%。目標達成には一段も二段も高い努力、対策が必要であると認識している。

質問 福祉施設等の民営化については、行政改革特別委員会に基本的な方針を説明しているようだが、本格的に民営化を進める、その具体的な方法は。また、保育園についても同じ方法なのか。

答弁 現在市にある4老人福祉施設、8認可保育所、僻地保育所一カ所について、福祉施設民営化推進室を新たに設けて取り組んでいる。順番としては老人福祉施設の民営化という事に注

力して進め、その一つである清眺苑について平成21年4月から民営化実施という目標で、その他の施設も5年間の中でという目標を立てながら進めている所です。手法としては補助関係の条件から、無償譲渡して委託先にやって頂くという方向が一番可能性が高いと考えている。保育園については民営化形態を統一していくのか各々の施設で異なった形をとるのか、部分委託等も含め今後検討していきたいと考えている。

質問 19年度決算状況で、2つの市立病院を合わせ約3億円の赤字とのこと。運営の一本化による再編とはどういう考えなのか。

答弁 この4月から病院経営改革推進室を新しく設け、市内の病院、診療所等全体の改善推進を図っている所です。20年度中に市立病院の改革プランを作成する中で地域医療が行き渡るような組織の一体化、ネットワークを考えている。

6月議会で、親書が届いた。「先人の想いと将来の発展に内陸線は必要。今こそ議会の果たすべき役割を示して欲しい。」

議長から一言

内陸線に想う
佐藤峯夫

開通して19年。赤字経営となるのは承知の上だったのではないかと。それ故、維持するためすべての市町村や民間が基金を積み立てた意味を思い起こそう。

それだけに、一、市長が社長を兼務するといった安易な会社経営（鉄道の専門家に経営を）。一、そんな経営を許してきた最大株主の県の責任も問われよう。今になって財政問題だけ論じられ、内陸線の位置付けに関する議論は忘れられている。

財政と負担を越えた生き残り作戦として、すべての県民がまず乗車してみることを提案したい。



特養たざわこ清眺苑

特別委員会の報告

6月定例議会において秋田内陸縦貫鉄道存続に関する調査特別委員会が新たに設置されました。

議会では、高校統合、行政改革、病院経営と合わせて、4つの特別委員会が今、審査中でありま

す。どれをとっても、市民の生活と、仙北市の財政に係る重要な課題であることから、そのつど、審査の経過を掲載いたします。

高校統合問題 調査特別委員会

県では、平成12年に前期の計画(13年から17年)として角館南高校を「統合により共学化を行う」と規程した。

16年には(18年から22年)たたき台として県議会に示し、角館地区を一校に統合する案を、県教育委員会が「第五次高等学校総合整備計画・後期計画」として17年に作成した。

特別委員会は「角館高校・角館南高校の並立存続を実現する会」より設

置の要望があり、19年2月に設置したものである。

地域づくりの中で高等教育の方針・少子化も含めて高校問題をどのように捉えていくのか、角館地区は2校の中での統合であり、1校より2校が望ましいことの強力な理論づけを、県教育委員会へどのように示していくのか等話し合った。

第3回委員会では2高校訪問し、学校の経営方針・南高校の共学化魅力ある学校づくり・校舎の老朽化の問題等について話し合った。

第4回では市内中学校



耐震度調査が必要となった老朽化の角館高校

長の方々と高校進学の状態とあり方・家計の負担の問題・2校存続に対する考え方・共学化及び魅力づくりについて情報交換をした。

地元という立場で県議会議員5名の方々からも総合的な見地から意見を伺った。

第7回では、県教育委員会の方々と意見交換をした。

県では「条例整備の整ったところから着手する」としていることから、県内統合案5地区の中で角館地区を除く4地区の協議はととのつている。

調査特別委員会では8

回の協議を重ねたものの、方向付けは出来ていない。

角館南高校同窓会では改選後の県議会に請願書を提出しているが、継続審査となっている。

行政改革 特別委員会

市議会では、市の運営をスリム化するため、行政改革特別委員会を設置している。

この特別委員会は、平成19年4月からこれまでに10回開催し、主に議員の報酬や福祉施設の民営化について協議を重ねて

いる。委員会においては、市当局と問題意識を共有し、特に重点的な改革を進めなければならぬ事項として、市民福祉部に



行政改革特委で論じられている寿楽荘。食事の入所者の皆さん

化を取り上げてきた。4月から8%の議員報酬の引き下げや、たざわ清眺苑の民営化などが、これまで議論の結果としての主な成果としてあげられる。

また、たざわ清眺苑は、来年4月から民営化するという目標に向けてスケジュールに沿って、課題を検討中である。

この中で、大切なことは、入居者の待遇であり、特別委員会では、民営化によって、入居者の方々に不利が生じる事のない

よう最大限の配慮が必要であることを指摘している。民営化にあたり、施設の移管方法や施設に勤務する職員の処遇問題など、具体案の、つめ作業はこれからであるが、特別委員会からも、さまざまな提言を行いながら、確実に一歩ずつ進めたい。

かくのたて桜苑、にしき園、角館寿楽荘についても、順次、民営化を進めるが、特に寿楽荘については、老朽化により施設の痛みがひどく、その方向性を今年度中に結論付けたいとしている。

行政改革の、もう一つの大きな課題は、保育園の運営形態である。旧町村のままで、それぞれ運営形態となっている保育園についても議論を深め、市として、理想的な運営の、在り方を模索することとしている。

合併や統合により、現在、使用していない市が所有する土地や建物などの処分や利活用の検討や、改革に対する職員の見識啓発など市当局と、共に進めたい。

市立病院等経営 に関する特別 委員会

特別委員会は平成19年度に設置され、審査の方向性として、仙北市の2つの市立病院と診療所が市民にどのような医療サービスを提供していくのか。そのための規模と機能の分担をどう計っていくのか、また厳しい経営が続いている2つの市立病院がどうしていけば生き残れるか、存続をすすめるために、どのような病院であればよいのか審査している。

現状の田沢湖病院においては、医師不足によりやむなく救急指定を取り下げているし、病床利用率も43%と、総務省の公立病院の経営改善を促す改革ガイドラインでは病床利用率が3年連続で70%未満の病院は診療所化するなど、平成20年度中に改革プランを作成するように求められている。

今年度は改革プラン作成のため、病院経営改革推進室と、大学病院長、



「医療施設として残す」方向付けが決まりつつある田沢湖病院

仙北市医師会長（角館ブロッコ）、市立病院正副院長、診療所長、県と市の担当者など14名のメンバーで、『市立病院等改革推進計画策定委員会』が設置され、第1回の策定委員会において、方向性として市立病院の運営を一本化による再編ネットワーク化を目指すことの了解をされている。

今後数回の開催により年内には改革推進計画の作成を目指している。特に医療資源（医師、薬剤、機器）の集中まで踏み込み、他会計にまたがっている診療所や病院間のネットワークも含めた再編をしていくのが基本的な考えである。

あるいは分院の形になる。策定委員会では財政についての議論はなされていないようだが、当然財政の問題が根底にあるので、田沢湖病院の赤字をどうするかのレベルではなく、市立病院全体を見る立場で経営改善と市民の医療ニーズに合わせることの視点からの協議となり特別委員会としては、市民が安心して暮らせる視点により慎重に審査を続けていく。



- 委員長 佐々木章
- 副委員長 真崎寿浩
- 委員 田口寿宣
- 門脇健郎
- 青柳宗五郎
- 田口喜義
- 浅利則夫
- 藤原万正
- 田口勝次
- 戸沢 清

秋田内陸縦貫鉄 道存続に関する 調査特別委員会

厳しい経営状況のなかで、存続問題に直面している秋田内陸縦貫鉄道について、仙北市議会として、今後の在り方等について調査を行うために、秋田内陸縦貫鉄道存続に関する調査特別委員会を設置した。

7月3日に第1回目の委員会が開催され、当局より秋田内陸縦貫鉄道の現状の説明と、仙北市としての存続に向けた取組み等についての説明を受けた。

引き続き、特別委員会、今後の進め方等について、協議をした。

めざす行動する委員会!!

— 広報委員の語るまちづくり —

原油高による諸物価の値上げに、私たち市民は悲鳴を上げ、生活に対する不安感はいっそう強まっています。

財布のヒモは固く閉ざされ、経済不況はますます長引きそうで、回復の兆しはいっこうに見えませんが、地方末端の仙北市のこの先はいつたような心配です。このまま仙北市に住んで生活できるのか、という声もあります。

議会広報委員がそのまちづくりについて語り合いました。



沢田委員長

(沢田) これから「議会広報委員の語るまちづくり」というタイトルで座談会を始めます。はじめに議会広報を単なる報告やお知らせではなく、「発信型」、「問題提起型」という面も必要でないかと考えています。このことについていかがでしょうか。

発信と提案の紙面作りを

(高久) 「合併したら議会が遠く感じる」という市民の声がある。議会だよりにしつかりした役割を持たせる必要がある。時には旧町村版のなべ



田口(喜)議員

ジを設けたらいいと思う。

(田口喜) 広報委員が地域に取材に向いて、問題を提起したり、地域の取り組みを発信する記事を書くことは、これまでの議会だよりにはない取り組みになる。画期的な取り組みであり、ぜひ成功させたいと思う。

(浅利) 地域づくりをターゲットに、地域の活動内容等を紹介するとともに、取材する委員も勉強することになり、委員相互の刺激になると思う。

取材は委員全員の取り組みにすべきと思う。



浦山議員

(浦山) 市民と広報委員の接触を深める意味で、企画した内容についてはさらに追い求め、経過や結果を市民に的確に情報発信すべきと思う。

(真崎) 「動く広報委員会」をモットーに、取材や座談会などを通じて、問題を発掘し解決する責務を担っていったらどうか。

(沢田) 問題提起、地域発信の議会だよりを発行する方向付けができた。今回から取材を通じて取り組むことにする。次に仙北市において最も危惧されること。こんなことを心配している点をお話ください。

気になる人と人のつながりの希薄さ

(黒沢) 農村部においても人と人のつながりが希

薄になっていることを心配している。子供達にもその傾向が強く、地域の絆が保てなくなり、集落が崩れるのではと心配している。



黒沢委員

(浦山) 国や県の話に、「限界集落」が大きく取り上げられている。私の住む田沢地区もその状況に近づいている。集落崩壊が心配であり課題と思っている。

(高久) 最も危惧していることは、何といたっても若い人達の定住である。雇用場が不足している状態を解消しなければ、若い人達が地域に留めることは不可能に近い。

(青柳) 基幹産業といわれる農業は末期に近い状態である。農機具も肥料も値上げが決まった。地域に住む人達が前向きに取組める農業に変える

事ができるかどうか危惧している。

(田口喜) 心配なことは色々あるが、大きくいつて、仙北市の定住条件となる環境が心配である。住む理由がなければ人は離れ、環境の悪いところは人は集まらない。



真崎副委員長

(真崎) 将来子供達がこの町に住むことができないようになるのでは、と心配している。働く場の確保にしても「優良な企業の誘致」が必要と思う。

(田口勝) 心配していることは、「地域全体に元気がない」ことだ。産業や経済だけでなく、我々議会も含め行政全体にもいえることだ。他の地域では民間の力で立ち向かえるが、ここではやっぱり行政が頼られる。まず職員が元気でなければならぬと思う。

(沢田) 幅広くたくさん
の意見が出た。JAの情
報によれば、肥料の値上
げが示された。これでは
農業の生産体制を維持す
ることは難しい。農家に
とっては大変な事態だ。
このような状況の中、仙
北市が生き抜くために
は、今後何を「売り」に
するかについて、話し合
いたいと思う。「売りが
あればもつと変わってい
る」と言う声もあるが、

**広い仙北市いっぱい
に「桜」を売りに**
(浦山) 仙北市の計画は
一般的に、財政上の関係
か、継続性がない。
仙北市として売りにする

「価値のある仕掛け」が
必要だ。「売り」は一朝
一夕にできない。長い積
み重ねが必要で、「お金」
と「人」をかけないと売
りは見出せない。

(真崎) 努力しているこ
とが話題になる時代だ。
夢中になって「取り組む
姿そのもの」を売りにで
きたらと思う。市民一人
ひとりの対応にかかって
いる。

(青柳) 広い仙北市全体
で「桜を売り」にすべき
と思う。名所はつくるも
のと考え、その仕掛けが
必要だ。その場限りでな
く、二次、三次の見通し
を持った対応が必要であ
る。

(黒沢) 地域の木材を活
かしたログハウスを使っ
て、「長期滞在型」を売
りにすべきと思う。



浅利委員

(浅利) 発信と言うこと
を正しく子どもに伝える
必要がある。農業を基本
とした「地域づくりその
もの」を売りにできると
思う。



高久委員

(高久) 仙北市は「観光」
を前面に進もうとしてい
るが、もつと努力の積み
重ねが必要と思う。この
ままでは観光も限界に近
づくと思う。



田口(勝)委員

(田口勝) 少子高齢化が
進む仙北市においては、
市立病院、診療所、開業



広い仙北市に「桜を」と
望まれた田沢湖高野地区



森林面積7割の仙北市の特徴を
活かしたログハウスは？

医の医療と福祉施設ある
いは地域ヘルパーなど
「医療福祉ネットワーク」
を形成して、「安心して
暮らせる町」を売り出せ
ると思う。

(沢田) 議会には仙北市
の課題に対応する4つの
特別委員会が設置され、
委員の皆さんも所属して
取組んでいるところだ
が、このことに対する意
見等あったらどうぞ。

内陸線廃止は集落崩 壊への道

(浅利) 先ほど限界集落
の話があったが、内陸線
が廃止されたら上桧木内
はまさに限界集落となる

という危機感がある。そ
うならないよう協力をお
願いする。県と沿線自治
体が「まちづくり」をし
なければ、支援策は単発
に終わる。



青柳委員

(青柳) 何にもいえるこ
とだが、計画には見通し
が大事である。内陸線に
しても高校統合でもある
いは行政改革においても
計画立案には、一定の見
通しが必要であり、大事
と思う。「協議」は幅広く、

と

深いものでなければなら
ないと感じている。

(田口喜) 病院に関する
特別委員だが、経営改善
を図る一方で、地域医療
サービスの充実も求めら
れている。

協議中の再編ネット
ワーク化の改革プラン
は、「市民のための医療
を確保する」「医療の質
を維持する」ことである。
そのために、自治体病
院は構造的な改革を行
い、自分達の市の病院と
して信頼を得ることであ
る。

(沢田) 座談会はこれで
閉じますが、編集方針か
らまちづくりまで、いろ
んなテーマについて語る
ことができ、有意義な時
間を過ごす事ができまし
た。

また委員の皆さんの仙
北市を思う熱い気持ちを
うかがうこともできまし
た。この委員会は、単に
「議会だより」を発行す
るだけでなく、仙北市の
輝きを求めて今後活動を
さらに進めたいと思いま
す。

あなたへ インタビュー

新メンバーで、市議会だよりを発行することになり、「発信する」を一つの役割としました。広報委員が取材を通して、市民と語り市民の声を反映することに取り組みます。1回目として、浅利、真崎の両委員が今回は、地域の取材にあたりました。

市民インタビュー



真崎 栄治さん (76)
仙北市田沢湖卒田在住

職業 農業
—— 合併しての感想は？

現在のところ、「良かった」とは言えないと感じている。

合併して、どのような仙北市をつくり、旧町村の特色をどのように引きだし、地域づくりを進めていくのか、財政面のマ

イナスのイメージが先行してしまっているが、具体的な部分までの説明が必要だと思う。

市民の交流の場をもっと増やして、一体感が感じられる仙北市を創ってもらいたい。

—— 議会に望むことは？

旧町村の垣根を越えて仙北市の視野での活動を望む。住民の声を反映させるためには、議員定数は減らすべきではないと考える。そして、市民と行政の橋渡しの役割を果たすため、多くの政策(特に農政!)を立案し、老いも若きも住みよい仙北市となるよう、市政運営に反映されることに期待する。



鈴木 定平さん (55)
仙北市西木町上松木内

職業 農業
—— 合併しての感想は？

村当時は一つの庁舎に各課があり、一度に全ての用事を済ませる事がで

きた。合併して分庁舎体制となり役所が遠い存在となった。市政が身近に感じられる体制を考えて欲しいと思う。

—— 議会に望む事は？

3年前に内陸線を守る会を立ち上げ頑張ってきた。北秋田市と比較して仙北市の方は取り組みが見えず心細かったが、議会に特別委員会が設置された事で心強く感じている。我々に出来る事は乗車運動と陳情活動。県に対して絶対内陸線が存続できるように頑張ってもらいたい。

わが会派

仁政クラブ

仁政とは、市民の立場をよく思いやって行う政治のことである。

会派の会則は設けてはいないが、所属議員や賛同していただく方々の自発的な活動を支援し、その行動パターンを重視している。

幸いにして6人は、旧町村にわたり、活動の柱となる議員と市民の問題

編集後記

議員任期の半分が過ぎた5月、常任委員会の構成替えが行われ、それに伴って議会広報編集特別委員も前掲(14頁)のようなメンバーに変わった。

新メンバーは委員9人中、8人が新任、1人が

再任という陣容になった。

これまでの編集ノウハウを基盤に、少しでも読みやすい議会広報になるよう委員一同努力したい。

「ありのまま、わかりやすく、住民と共に」をモットーにした広報作りを心掛けたいと思っている。

「発信と提案」まちづくりの議会だより

意識を共有するには理想の会派である。

月1回程度、市内各地を訪ねて勉強会を開いている。7月6日はボランテニア団体の案内で、田沢湖の白浜で清掃活動をしたが、岩手のジェットスキー愛好グループ、振興局の職員、地元関係者等と話し合うことが出来、現場からの問題点を大量に持ち帰ることが出来た。

次回の8月の予定では白岩で麦の栽培で頑

張っているグループを訪ねる計画。更に9月は、9・17豪雨から1年、被災地松木内での復旧活動の実態調査など、行政に生かすための調査活動が中心であるが、市民の皆様のご要望があれば、どこへでも出向きたい。

(代表 安藤武)

